

新建 **ちば** 2023/3 No.288

新建築家技術者集団 千葉支部機関紙



千葉県内駅前百貨店の撤退について



柏駅前「都市再発法」による市街地再開発事業全国初の成功事例と喧伝された



船橋駅前「西武」は解体工事中。駅前広場から続くペDESTリアンデッキは？



津田沼2F改札口から直接ペデ・デッキで繋がる「パルコ」は利便性が良かったが



千葉「三越」跡地は杭・基礎工事が始まっている。道路向かいのNITビルも工事中だが、駅前から中央公園まで続く歩道の材質を変えとか、緑道化するとか、ひと工夫が欲しい

昨年末の池袋駅前の「西武本店」撤退のニュースに続いて、この1月末の新聞には、渋谷の「東急本店」の営業終了の記事が載っていた。都市駅前の顔として君臨してきた「百貨店」の時代は終わった。千葉県でも、柏駅前の「そごう」が平成28年に閉店して、現在は三井不動産の所有となっているが、用途は未定。船橋駅前の「西武船橋」は閉店し、解体中で、1、2階に商業施設と上階にはマンションが計画されている。津田沼駅前の「津田沼パルコ」は2月28日をもって閉店予定で、一部は商業施設として残るが駅前側のビルについては未定。また千葉市では既に「三越」の入っていたビルは解体され、23階建ての新しい建物の工事中で、1、2階に商業施設と上階はマンション。こうして駅前の顔と賑わいが無くなっていくと、駅前には単に駅利用の人が流れる、動線空間となってしまふのだろうか？ 柏、船橋、津田沼はペDESTリアンデッキがあるので、イベント空間化して活性化を図るとか、また千葉駅前には思い切った緑化空間化を推進するとか、県都の表玄関として相応しい都市空間の創出が求められる。(文・写真：泉 ヒロヨシ;但し、柏はウィキペディアから引用)



* 目次 *

- 02 目次・企画予定表
- 03 学校校舎の耐震・改修事業におけるコンサルティング業務01
村田 輝夫
- 06 集合住宅によるまちづくりと技術開発04
泉 ヒロヨシ
- 08 世界まち歩き 34・モロッコ大周遊／マラケシュ
高山 登
- 11 山本厚生さん講演報告
泉 ヒロヨシ
- 12 事務局だより

* 企画予定表 *

月	支部企画	その他企画	全国・他支部企画	その他
3月	24・金 ちば塾 基準法改正について	25・土 創宇社100周年企画・東京都市大学		9 (木) 20:00～ 支部幹事会＋交流会
4月			15・土 全国幹事会	13 (木) 18:30～ 支部幹事会＋交流会
5月				11 (木) 18:30～ 支部幹事会＋交流会
6月				8 (木) 18:30～ 支部幹事会＋交流会

【旅の思い出スケッチ No4】

● 海外編 (スイス)



鈴木 進

フランス、イタリア、スイス、ギリシャの4か国を2週間の休暇を取って訪れたのは45年も前のこと。

当時、1ドル360円、夫婦で総額120万円程かかり、その殆どを職場からの借金で賄った。

旅の目的は、それぞれ

の国の都市政策の調査で、市役所や保育園の訪問も含まれていた。

千葉支部初代代表幹事の竹村新太郎さん、千葉大学の宮崎元夫先生など、いいメンバーと一緒に楽しく、勉強になる旅だった。竹村さんは初めての海外ということだったが、各地で近代建築史に登場する目前の建物や橋梁の解説があり、とても驚かされた。ツェルマットはマッターホルンの登山基地。木造建築のバルコニーの花々が印象的な美しい町だった。環境対策でガソリン車は禁止され、電気自動車や馬車が走っていた。今もこの美しい町並は変わっていないことだろう。滞在中、ずっと曇天で見られなかったが、出発日朝の奇跡的な快晴でマッターホルンの美しい全景を一瞬見ることができた。感動的だった。

(以下は建築Gメンとして活動されている会員の村田さんがGメンの機関紙に掲載された文章を紹介させていただきました。事務局)

学校校舎の耐震・改修事業におけるコンサルティング業務報告—1

建築 G メン 村田輝夫

神奈川県藤沢市郊外の丘陵地に位置する、学校法人 T 学園 F 高等学校(1931年〈昭和6年創立)は、木造の旧校舎から、1963年(昭和38年)に現1・2・3号館校舎が鉄筋コンクリート造に建て替えられましたが、建築後50年以上の年月を経た校舎は、従来から、新耐震構造設計基準以前の建物として、その耐震強度などの不足が指摘されていましたが、限られた予算での具体的な耐震補強の進め方について頭を悩ませていました。

本件コンサルティング業務の受託は、このような状況の中、2014年(平成26年)7月、神奈川県を中心に古民家再生事業を手掛けている建築家であり、当校の卒業生で、PTA会長として学校法人の評議員も務める知人のF氏を通じ、これまで建築設計・建築コンサル業務に長く携わってきた当職に相談があった事案です。

当職は、相談を受けた本件事案について、事前に類似事例の調査や文献調査を行い、本件事案の問題解決策について多方面から慎重に検討を行い、2014年(平成26年)11月1日、F氏と共に学校を訪問し、校長以下、学校幹部の集う会議に臨み、これまで当職が検討してきた問題解決案について提案を行いました。

提案にあたっては、多くの私立学校の抱える学校経営問題等を事前に十分研究したうえで臨みました。

これらの研究・検討結果を基に、単なる校舎の耐震補強や改修工事に終わらせるのではなく、「将来に亘る少子高齢化問題を念頭に、生徒はもとより、保護者の方々や地域から選ばれ続ける、特色のある学校を目指した校舎耐震・改修事業とすべきである」との提案を行い、この想いを基本として作成した、当職の**「プロポーザル方式の提案書」**が、学校側の賛同・承認を得られたことにより、学校法人と、当職の主宰する有限会社都市総合デザインシステムと間で**「コンサルティング業務委託契約」**が締結されました。

コンサル業務を受託するにあたっては、当職の清水建設株式会社勤務時の経験などから、単なるコンサルとしてではなく、校舎耐震・改修事業の**「コンサル兼プロジェクトマネージャー」**として関わり、校舎耐震・改修事業の推進役を担うことになりました。

「コンサルティング業務委託契約」締結後、2015年(平成27年)5月からは、**「校舎耐**

震・改修事業における基本方針、を策定するため、校長から諮問を受ける形で、学校全体の校務を仕切る当時の事務長(現校長)を委員長とする「**校舎耐震・改修事業検討委員会**」を立ち上げていただき、校長以下、教頭、事務長、事務主任以下、各科の教師の方が学内委員として選任・任命されました。

校舎耐震・改修事業検討委員会立ち上げにあたり、当職は、唯一、**学外委員**として同委員会に参画し、同委員会の運営・推進役を担うことになりました。

これを受け、約5カ月半に亘り約20回の校舎耐震・改修事業委員会の討議を経て「**校舎耐震・改修事業基本方針案**」を策定し、校長に答申しました。

この際、当該基本方針案策定同時に当職が独自に策定し、提案した「**校舎耐震・改修事業コンセプト(案)**」が採択され、学校法人本部理事会の承認を得たうえで本件校舎耐震・改修事業がスタートしました。

本件校舎耐震・改修事業は、当初、通常の耐震・改修事業としてスタートしましたが、本校は自衛隊の横須賀基地から厚木基地の航空路に当たっているため、戦闘機などの航空騒音が酷く、防衛省の防音対策対象地域に指定されていたため、耐震・改修工事に加え、防音機能復旧工事・防音改造工事及び、それらの工事に伴い発生する空調設備工事、さらに、その他校舎を現代に合わせ刷新するための自主改修工事を併せた大規模な「**校舎耐震・改修事業**」に発展しました。



既存校舎外観

(本件校舎耐震・改修事業の特徴)

■本校校舎の現状と基本方針決定までの経緯

戦前の1931年(昭和6年)に創立され、1963年(昭和38年)に建築された現在のRC造の校舎は、長い歴史を経て、多くの問題も抱えていました。

エントランス、受付・事務室、校長室、応接室、教職員室、会議室、保健室、進路相談室、就

職指導室等の管理部門各施設と、普通教室、選択教室、PC実習室、化学・理科実験室、各種研究会室、及び体育館(校舎建設の後に新耐震基準にて新築)、図書室(校舎建設後に新耐震基準にて新築)運動部・文化部各部室などの施設が、幾度かのクラス等の配置替え、授業カリキュラム編成の見直しなどにより、施設間の有機的・機能的な繋がりを欠き、生徒や教職員の方々の移動に伴う「動線」なども混乱した状況にありました。

このため、校舎の耐震・改修事業を実施するにあたっては、学校施設全体の効率的で有機的・機能的な配置など、抜本的な見直しが必要であるとの、当職及び学校関係者全体の認識が一致しました。

昭和40年代以降の、地震災害などによる建築基準法の改正に伴う構造設計基準の変更などに照らし、本校校舎は、明らかに、新耐震設計などの、最新の建築基準法における構造設計基準を満たさない既存不適格建築物そのものでした。

このような状況の中、今回の校舎耐震・改修事業を進めるにあたって、建築基準法の最新の構造設計基準に基づいて2014年(平成26年)12月に実施された「耐震診断」の結果、校舎建物の耐震強度を示すIS値は、0.6を下回る箇所が多く見られました。

学校施設における文部科学省の推奨IS値が0.7以上とされている状況の中で、1000名もの生徒や教職員の安全確保や、生命を守らねばならない学校として、早急なる校舎の耐震補強の実施は、喫緊の課題として改めて認識されることになりました。

建築されてから50年以上が経過し、物理的、機能的、経済的陳腐化が進む中、予算の問題などから、これまで建替えや改築などに踏み切れないでいましたが、建物施設は老朽化し、一部の箇所に耐震強度不足があるものの、未だ最低基準の基本性能を維持している校舎施設を、大切に活かしながら、将来に亘って長く使い続けるため、単なる筋交い補強などによる安易な耐震補強でなく、安全を最優先に、必要な補強を行いつつ、

現在の建物構造躯体を活かしながら、既存の建物施設の基本計画を抜本的に見直し、その機能や性能を、現在の学校が求められている水準以上の高い水準まで引き上げ、少子高齢化の進む中での私学経営問題など、学校の置かれた厳しい状況を打開することが喫緊の課題となっていました。そのような状況の中、この厳しい状況を打開するため、最も有効な耐震・改修手法として、当職が提案させていただいた長寿命改修【リファイニング改修】(案)が学校法人理事会において採択され、以後、今回の校舎耐震・改修事業における学校法人の基本方針となりました。

以下次号に続く

集合住宅によるまちづくりと技術開発—04

新建千葉支部会員 泉 ヒロヨシ

・情報共有方式（CA-TV）

技術は、当初は止むに止まれぬ事情から出発して、意外な方向に発展することもある。CA-TVもそういった展開をたどることが出来そうだ。CA-TVの原点は、TV電波障害対策の協調アンテナの画像配線網から始まる。

既成市街地内に高層建築を建設すると、様々な障害が発生する。思い出すままに列記すれば、

- ①日照障害・・・高層建物の北側に、日照の当たらない状宅が出てくる。
- ②風害・・・高層建物に風が当たると、建物を巻き込んで、下層階では3倍の強風となって、影響が出てくる。
- ③プライシー・・・高層で高密な集合住宅が出来ると、低層住宅では視線を遮れなくなってくる。実際は注視していなくても、見られる不安感が残る。
- ④TV電波障害・・・TV電波発信元から受信箇所の上に高層建築が建つと、建物を迂回する電波との間にずれが生じ、受信画面にゴーストが発生。
- ⑤建物圧迫感・・・至近距離の高層建築は身近に倒れ掛かってくるように感じる。
- ⑥その他・・・工事に伴う騒音、振動、塵埃、作業員風紀など

が指摘され、「工事公害」と呼ばれた。こうした不安の解消には何度も説明会を開いて対策を講じてきたが、④TV電波障害については、TV電波の発信元と中間の、障害になる建物に大きな受信協調アンテナを立てて一度受信し、そこから障害地域にケーブルを配線して画像を再送した。この工事は、広い道路をまたぐときなどは大変だったが、この工事の延長線上にCA-TVがありそうだ。不確かな記憶だが、神奈川県下のある地域で、電波障害対策工事を進めている時に、対象地域外からも引き込み要請があり、議論している中で、TV電波の再送だけではなく地元情報も発信したらどうか、と話が進展したと聞いた。

確かに協調アンテナをキー局に置き換えれば、CA-TVを通じてローカル放送を流すことも出来る。更に記憶では、練馬区の光が丘団地では、地元放送局として専用スタジオを持ち、アナウンサーを公募、団地内の店舗から広告収入を得て、運営していた。定時にニュースを配信し、団地内行事の告知や学校行事の連絡事項を流したり、店舗の安売り情報なども流していた。浦安でも同じような試みが行われていた、と思う。約30年程前のことと記憶するが、調べると、光が丘のCA-TVは昭和62年（1987）に開設したが平成5年（1993）には廃止になっていた。このことのいきさつを、現在の団地役員の方に伺うと、誰も知らないとの返事だった。世代交代などもありそうだが、PCの普及、一般化により、情報の通信手段が進化し、変化していったのだろう。町内会の連絡網なども、メール通

信で済ます時代が来ているようだ。ただ、緊急な非常事態への対応などに、C A-T Vを通じて、一斉に地域情報を伝達するなど、ローカルな放送の生きる道はありそうな気がする。

次にC A-T Vを利用したローカルT V局も、地域の情報網として貴重な存在であることは間違いない。佐賀県唐津市にはC A-T V放送の「び〜ぶるテレビ」がある。近々、光テレビに変わるようだが、私が佐賀県で仕事をしていた時期には、唐津市の市街地の交差点にT Vカメラが設置されており、交差点を行き交う人が映し出されていた。定時だけだったか常時だったか忘れたが、床屋などで、お客に対して、“お前は昨日、交差点を歩いていたなあ、“とか、話題になっていると聞いたことがあった。今の日本は公的場所では、すべての行動がカメラでとらえられていると覚悟した方がよさそうだが、こちらは笑えない話だ。

中島 こんには、び〜ぶるカスタマーセンターの中島です。今回は昨年10月の浜玉地区から受付を開始した新サービスについてご案内いたします。

今回は… **新テレビサービスについて**

Q 唐津市全域のテレビ契約が新しくなると聞きましたが、何もしなくても大丈夫ですか？

A. ケーブルテレビ(唐津市有線テレビ・ネットフォー・び〜ぶる)でテレビを視聴されている場合はお手続きが必要です。

ケーブルテレビ(唐津市有線テレビ・び〜ぶる)のテレビサービスは地区ごとに新サービスへ移行していきます。それに伴い、移行完了した地区は順次、現在のサービスを終了していきます。手続きがお済でない場合は、ケーブルテレビ施設を利用した地デジ放送を含むすべての放送が映らなくなります。ご契約お客様が対象のエリアになりましたら、月刊び〜ぶるや郵送にてお知らせしますので、移行手続きのご協力をお願いいたします。

現在、ケーブルテレビ施設を利用して、移行手続きを行わなかった場合、映らなくなるチャンネル

- NHK-G ●NHK-E ●KBC ●STS
- RKB ●FBS●TVQ ●TNC
- び〜ぶる放送 ●チャンネルからつ

新サービスへの移行も新規ご加入も **標準工事費…無料!**

※標準工事費は標準ケーブル工事費(標準工事費)1,000円(税込)と標準ケーブル工事費(標準工事費)1,000円(税込)の合計2,000円(税込)です。標準工事費は標準工事費(標準工事費)1,000円(税込)と標準ケーブル工事費(標準工事費)1,000円(税込)の合計2,000円(税込)です。標準工事費は標準工事費(標準工事費)1,000円(税込)と標準ケーブル工事費(標準工事費)1,000円(税込)の合計2,000円(税込)です。標準工事費は標準工事費(標準工事費)1,000円(税込)と標準ケーブル工事費(標準工事費)1,000円(税込)の合計2,000円(税込)です。

ケーブルテレビのサービスはこう変わります!

現在 ケーブルテレビ 地上波・衛星放送 月額2,200円

び〜ぶる光テレビ 地上波・衛星放送 月額2,200円

地上波プラン ●地上波・衛星放送プラン 月額2,200円

衛星放送(BS・CS)の視聴にはパラボランテナも専用チューナーも不要です!

※地上波テレビのご視聴には、NHKの受信料は含まれていません。「地上波アンテナは不要!」、「地上波・衛星放送アンテナは不要!」の表示は、地上波・衛星放送アンテナの設置が不要であることを示しています。※BS・CSの有料チャンネルの視聴には衛星放送会社と契約が必要です。※TVCBS・CSチューナーが設置されている必要があります。※CS衛星放送は標準設置しております。

各エリア新サービスへの案内開始～移行スケジュール(予定)

地区	2014年					2015年					2016年				
	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月		
浜玉	●	→	→	→	→										
相知		●	→	→	→										
船橋・野子			●	→	→										

※案内開始よりサービス受付までは数ヶ月が経過いたします。※移行期間終了後、エリアごとに移行サービスの提供は終了します。※スケジュールはあくまで目安です。※地区を完了後も受付可能です。び〜ぶるカスタマーセンターにお問い合わせください。

●地区区画 ●地区受付 →工事 ←案内開始・移行予定

パソコンやインターネットのお困り事もび〜ぶるカスタマーセンターにお任せください!

V] 世界遺産 マラケシュ「メディナ（旧市街）」

マラケシュ

マラケシュはモロッコ中央部にあり前回ご紹介した世界遺産で日干しレンガ造りの古いクサル（城）のアイト・ベン・ハッデウからアトラス山脈を越え北西に約170kmに位置する。かつて北アフリカ最大のイスラーム交易都市として栄えた街。人口は約90万人。モロッコ第4位の都市であり、フェズに次いで2番目に古い町でもある。

マラケシュ自体は旧市街（メディナ）と新市街に分けられる。旧市街はイスラーム支配下時代から続くもので、新市街はフランス人によって造られたもの。

メディナのスーク（アラブ人やベルベル人の世界で、商業地区）

旧市街メディナは、東西に2km、南北に3kmの城壁で囲まれており、1985年に世界遺産に登録。北アフリカ最大の規模を誇るマラケシュのメディナには23万人が住む。

スークは、世界最大規模とも言われている市場で、マラケシュで最も魅力的な場所。ここでは、貴金属類やバブーシュといわれるモロッコのスリッパ、絨毯などジャンルを問わずさまざまな雑貨や日用品が販売。スークに一步足を踏み入るとここは迷宮。入り組んだ通路と人混みや喧騒で、相当の注意をしないとまず迷子になってしまう。目印の一つとしては、町割りの境界には小さなゲートがある（写真①）

赤い街マラケシュといわれ、旧市街はすべての建物が赤土の日干しレンガで造られており、ローズピンク。この色がマラケシュカラーといわれ、すべて建物にはこの色が義務付けられているという

（写真②）。



写真①町割りの門



写真②ローズピンクの街並み

ジャマエル・フナ広場（昼）

ジャマエル・フナ広場は、マラケシュの旧市街の中心にある広場。かつて処刑場として使われていて、この広場はアラビア語で「死人の集う場所」を意味するとのこと。アラビア語の意味を知ると、それが今世界で最も賑わう広場になるとはなんとも奇妙な感じ。

400m四方のこの広場では各地の芸人達がパフォーマンスを繰り広げ、町はエネルギーでエキサイティングな場所、世界一にぎやかな広場といえる。

スークに続くこの広場は観光客や多民族でごった返すのと、終日止むことのない民族楽器の音や人々のにぎやかな声などが、独特な空気を造りだしており、それ自体が広場の魅力となっていると思われる。（写真③）。

写真④左手前はベルベル人の民族衣装の水売りのおじさん達で、写真のモデルを商売としている。写真を撮るとチップを要求してくる。



写真③ 民族楽器の演奏



写真④ 写真モデルの水売り人

ジャマエル・フナ広場（夜）

旧市街はフェズと並び、1200年もの年月が息づく世界最大の迷宮都市。フナ広場はモロッコ国内でもっとも活気あるといわれる場所。あらゆる大道芸や人並みで毎日がお祭騒ぎになる。夕方になるとおびただしい数の仮設店舗があつというまに出現。日本でいうなら焼き鳥屋と炉端焼き屋がミックスされたような店構えだ。なんとあの広大は広場の半分位を占め雰囲気は様変わりする。

写真⑤365日、興奮と賑わいでごった返すフナ広場。深夜1時頃まで続く



写真⑥焼肉は牛、羊、鶏、挽肉など。イスラームの国でどこも酒類はない



写真⑦数ある中で、最も混雑していた14番店の揚げ物の屋。物凄い人気で席につけず、イカのリング揚げをテイクアウト、実に美味しい。昼と夜で豹変する広場には驚き、世界中どこにも無いのでは



山本厚生さん講演報告

「ラーゲリーより愛をこめて」－父・山本幡生の強い信念を受け継いで－

『支配・収奪のない未来へ』－「世界文化再建」と私たちの役割

報告；新建千葉支部会員 泉 ヒロヨシ

昨年12月9日から始まった標題の映画がロングランを続けている。

新建東京支部ではこの動きに併せて、2月12日(日)、板橋区の会場で、山本幡生の次男で、新建代表幹事でもある、「山本厚生」さんの講演会が開催された。すでに福岡、大阪でも同様の会が持たれており、今回が最後という事であったが、当日は北海道からの参加者もあり、関東一円から、定員100名の所に160名の参加者があった。新建会員関係者は半数程度で、一般参加の方も多かった。中には子供連れの家族の姿もあった。高齢者が多く、男女比は半々といったところか？山本さんは前半の1時間は、PPを使いながら、家族写真(写真の左端が厚生さん)や、遺書を示しつつ、山本幡生は東大を出て学者になりたかったけど、生活を助けるために東京外大で実学を学ぶことにし、ロシヤ文学や芸術が好きだったからロシヤ語を専攻したこと、そして最初は九州の民間会社に勤務していたが、日本が満州に侵攻するにつけて、ロシヤ語通訳が必要になり、満洲に駆り出されたこと等が話された。そしてヤルタ会談の後のソビエトの突然の参戦、以降は映画の通りの展開となる。特にご両親は相思相愛でお母さんは明るい人だった、と話されるのが印象的だった。

厚生さんは、講演の為に考え抜いたと言われる、6項目からなるメモを準備・配布された。1項では映画について感動の郵便・電話がたくさん届いたこと、2項では父親の人生と両親のこと、どここまでは映画に関連した話題であり、3項以降からが山本さんからの標題の話となる。

3項では、幡生からの遺言にある「忘れてはならぬ」、「歴史的使命」について、日本が世界大戦において世界文化を壊滅させた事実を、罪として自覚し、「人道主義」で「文化」再建することを日本民族の「使命」とし、外来文化を融合すること、4項は戦後の状況について、日本国憲法やポツダム宣言には日本再建の道筋が書かれているが、実際にはアメリカや財界支配層に洗脳されて、企業利益を推奨し、戦争の肯定、考えない国民づくりに進んでいる。この仕組みを見抜き、拒否することを続けよう。

5項では、明るい未来を切り開く気概を示す・支配関係のない平和を・生産は暮らし文化創造のために・自然と人類の共存関係を・人間の尊厳、愛情と気配り、社会的協働意識を

そして最後の6項では、「機は熟している」として、住民主体の喜びを実現しよう、と結ばれた。

この後、近くのレストランで、40名が参加した懇親会が持たれた。



左端が「山本厚生」さん

○創宇社建築会 100 年研究会第 1 回シンポジウム

「建築運動」を語るアーカイブズをめぐって

日時：2023 年 3 月 25 日（土）13：30～16：00

会場：東京都市大学世田谷キャンパス 7 号館 1 階 71A 教室

講演 1 西山文庫、これまでとこれから 広原盛明 京都府立大学名誉教授

講演 2 プロフェッサー・アーキテクトの残したものー蔵田周忠文庫を中心として
岡山理香 東京女子大学教授

講演 3 創宇社建築会から「建築運動」の歴史化へー竹村文庫の資料

佐藤美弥 名古屋市立大学准教授

共催：創宇社建築会 100 年研究会・竹村文庫・名古屋市立大学佐藤美弥研究室
東京女子大学岡山理香研究室

参加申し込み：sousha.kenchikukai@gmail.com（会場またはオンライン明記）

千葉支部会員の佐藤美弥さんが企画の中心として頑張っています。ぜひご参加下さい。

○支部幹事会＋交流会

毎月第 2 木曜日定例で行います。どなたでも参加できます。直前に支部会員 ML に ZOOM 会議招待の URL を送ります。クリックして参加してください。

○WEB ちば塾（ZOOM）

3 月 24 日（金）20：00 より「建築基準法改正・特例廃止について」講師 中安博司

○千葉建築・街並探訪

年 2 回程度（候補地：東金、市川、行徳、三里塚など→コロナ後再開します。

以上お問い合わせは事務局まで。

事務局だより 「創宇社 100 年」は建築運動の歴史をたどる企画、ちば塾は設計業務に直結するテーマです。どちらも興味深いです。ぜひご参加を。（加瀬肇）

新建千葉支部事務局：株式会社 ゆま空間設計

TEL043-253-8801 FAX043-253-8806

千葉市若葉区みつわ台 5-4-14

E-mail: office@yumaku-kan.co.jp

新建千葉支部ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~shinken/chiba/>

発行：千葉支部幹事会
編集：千葉支部幹事会
編集ワーク：中安博司

編集後記：ウッドショックに始まり、ロシアのウクライナ侵略で生活に必要なエネルギーやモノの値段が上がって多くの人が影響を受けています。建築も多大な影響を受け 3~4 割も建築費が上昇しており、どう下げるか苦戦しています。（中安）